

中野重治全集

中野重治全集

第十九卷

筑摩書房版

中野重治全集第十九卷

昭和三十八年九月三十日 発行

定価 一二〇〇円

著者 中野重治

発行者 古田晁
東京都千代田区神田小川町二ノ八

印刷者 柳川太郎
東京都板橋区志村町五

発行所 筑摩書房
東京都千代田区神田小川町二ノ八

電話東京(291)七六五一(代表)

振替東京四一二三

印刷 凸版印刷株式会社
製本 株式会社高陽堂

目次

日本訳『レーニンのゴリキールへの手紙』序に代えて	三
日本訳『第二インターナショナルの崩壊』序	四
『中野重治詩集』自序	五
日本訳『レーニンのゴリキールへの手紙』訳者はしがき	七
『論議と小品』序	八
『論議と小品』あとがき	一〇
『中野重治詩集』序	一一
『子供と花』あとがき	一二
『小説の書けぬ小説家』序	一三
『汽車の罐焚き』前書き	一四
『現代詩人集』第一卷「中野重治詩集」はしがき	一六
『中野重治随筆抄』前書き	一七
『歌のわかれ』序	二〇
『汽車の罐焚き』うしろがき	二三

『中野重治詩集』あとがき	二四
『文学のこと 文学以前のこと』まえがき	二五
『楽しい雑談』第一はしがき	二七
『楽しい雑談』第二はしがき	二八
『楽しい雑談』第三はしがき	三〇
『楽しい雑談』第四はしがき	三一
『中野重治選集』第二巻作者はしがき	三三
『中野重治選集』第三巻作者はしがき	三三
『中野重治選集』第四巻作者はしがき	三四
『中野重治選集』第六巻作者はしがき	三五
『中野重治選集』第十巻作者はしがき	三六
『中野重治国会演説集』前がき	四〇
『歌のわかれ』前がき	四四
『中野重治詩集』前書き	四五
『政治と文学』前書き	四六
『話すことと書くこと』まえがき	四七
一九五三年五月に	五〇
『わが読書案内』前書き	五一
『中野重治詩集』後書き	五三
『外とのつながり』前書き	五五

『事実と解釈』前書き……………七
口で話した話……………六
読者のみなさんに……………六
『映画雉感』あとがき……………三
下川の詩集の跋として……………三
山田の論文の長い間の読者として……………六
『流民詩集』序……………六
『時のうごき』第一集のためのしがき……………七
『時のうごき』第二集のためのしがき……………七
『時のうごき』第三集のためのしがき……………七
『小林多喜二研究』前がき……………七
『闘いのあと』序に代えて……………七
林そのものの鳴るごとく……………八
読者のために……………八
読者のために……………八
『朝鮮冬物語』跋……………八
心からよろこぶ……………九
『闘いの環』序……………九
詩集にそえて……………九
『新しい詩の作り方』まえがき……………九

人の世の因縁	九六
『嵐にうたう』まえがき	一〇〇
日産労働者の詩と歌	一〇一
三条の人々に	一〇三
『鶴』の世界	一〇五
かすかな挨拶	一〇六
『石の怒り』のために	一〇七
積みかさねる力	一〇九
詩集のうしろに	一一〇
西山安雄の文学	一一一
兼岩君の横顔	一一三

『論議と小品』について	一二六
『子供と花』について	一二〇
『汽車の罐焚き』について	一二一
『鷗外その側面』について	一二三
『文学論』について	一二五
購読者の熱心な協力を訴える	一二四
『現代ソヴェト文学全集』をよろこぶ	一二四

『文学案内』について	一五
良心的なスタッフ	一六
木下三平の「国内よりの書簡」をすすめる	一七
『萩原朔太郎全集』	一七
この選集のために	一八
芥川龍之介をおもう	一九
私の言葉	二〇
『ヴァレリイ全集』	二一
おのずからな総決算	二二
大関君の詩	二三
『伯父スターリン』	二三
訴える一葉文学	二四
詩集『ぶどうばん』	二四
新しい展望	二五
Querschnitt	二六
編集にあたつて	二七
この二人の作家	二八
痩せと肥え	二九
自然な期待	三〇
壺井栄のたましい	三一

「土」の上演に期待	一四一
農民と農村との問題	一四二
『現代作詩辞典』をすすめる	一四四
日本人の心の一つの鏡	一四五
矢部友衛	一四六
『海』の訳者	一四六
具合のいい点	一四七
小倉金之助さん	一四八
若さの清潔	一四九
たのしみ	一四九
この集の特色	一五〇
手ごろということ	一五一
野中の清水	一五二
今日という日の話	一五三
推薦者の言葉	一五三
一騎当千の人	一五四
友人として	一五四
母乳のごときもの	一五五

執筆者として	．．．．．	一五七
「昭和四年上半期の印象に残った藝術」を問われて	．．．．．	一五七
来年は何をするか	．．．．．	一五八
西鶴について	．．．．．	一五八
詩と童話とを	．．．．．	一五九
「能動主義」について	．．．．．	一六〇
文学を志す人のために	．．．．．	一六一
影響された本	．．．．．	一六一
お茶の飲めるような場所にしたい	．．．．．	一六三
国文学者に求めるもの	．．．．．	一六三
ふたりの新人	．．．．．	一六三
学藝欄の夕刊移行とその現状に対し	．．．．．	一六三
「昭和十二年度において最も印象に残った作品」を問われて	．．．．．	一六四
少年少女たちに	．．．．．	一六四
六月の映画・演劇のうち	．．．．．	一六五
「歴史」「密猟者」「光の中に」について	．．．．．	一六五
今日の日本で翻訳するべき洋書	．．．．．	一六六
「いかなる内外新聞・雑誌を読んでいるか」との間に	．．．．．	一六六
「新党」問題について	．．．．．	一六七
最近の「文化映画」のうち	．．．．．	一六七

「関心を惹いた」もの	一六
読みたいもの 読ませたいもの	一六
わが今日の決意	一六
忠霊塔建設勤労奉仕の感想	一六
図書推薦ひとつ	一六
新聞の九星欄	一七〇
「二十一年上半期注目すべき書籍と雑誌」を問われて	一七一
高校生に望むこと	一七一
私の予定	一七三
娯楽雑誌に注文	一七三
私は何を読むか	一七三
人事院規則と教授追放	一七四
一九四九年の収穫	一七四
刑務所と刑務官	一七五
地方文化・文学運動にのぞむもの	一七五
一九五一年への期待	一七六
教育上の気がかり	一七六
わたしの答	一七七
二十台なら	一七八
図書館の思い出	一七九

条件づきで	．．．．．	一七九
来年に期待する作家・評論家	．．．．．	一八〇
スターリン論文について	．．．．．	一八〇
文藝映画への興味など	．．．．．	一八一
私のすすめるもの	一	．．．．．
私のすすめるもの	二	．．．．．
石川啄木	．．．．．	一八二
私の推薦する本	一	．．．．．
私の推薦する本	二	．．．．．
私の推薦する本	三	．．．．．
私の推薦する本	四	．．．．．
私の推薦する本	五	．．．．．
私の推薦する本	六	．．．．．
勝手な読み方	．．．．．	一八六
ささやかな願い	．．．．．	一八八
さしあたりお答え	．．．．．	一九〇
百科事典について	．．．．．	一九二
結婚について	．．．．．	一九四
文学者として	．．．．．	一九五

詩の選を終えて	一九七
論文選後評	一九八
詩の選評	一九九
「二世代の敗北者」について	二〇一
詩の批評	二〇三
詩選評	二〇五
詩選評	二〇七
詩選後評	二〇八
新作家誕生のために	二一〇
選者の一人として	二一二
選者の言葉	二一五
選後評	二一六
コンクールにちなんで	二一七
「ひげ」を推す	二一九
「泥と水」について	二二〇
選者として	二二〇
特殊な困難	二二三
選評	二三三

作品評	．．．．．	三七
小説選評	．．．．．	三三
小説選評	．．．．．	三六
今年の結果	．．．．．	三九

『プロレタリア藝術』一九二七年八月号編集後記	．．．．．	二四三
『プロレタリア藝術』一九二七年十月号編集後記	．．．．．	二四四
『プロレタリア藝術』一九二七年十一月号編集後記	．．．．．	二四五
『プロレタリア藝術』一九二七年十二月号編集後記	．．．．．	二四七
『プロレタリア藝術』一九二八年一月号編集後記	．．．．．	二四八
『プロレタリア藝術』一九二八年三月号編集後記	．．．．．	二五〇
『戦旗』一九二八年五月号編集後記	．．．．．	二五三
『大衆の友』一九三一年二月号編集後記	．．．．．	二五五
『ナツプ』一九三一年八月号編集後記	．．．．．	二五四
『ナツプ』一九三一年九月号編集後記	．．．．．	二五七
『ナツプ』一九三一年十月号編集後記	．．．．．	二六〇
『民衆の旗』一九四六年二月号編集後記	．．．．．	二六三
『新日本文学』一九四九年六月号編集後記	．．．．．	二六四
『新日本文学』一九五〇年十一月号編集後記	．．．．．	二六六

『新日本文学』	一九五一年一月号	編集後記	二六
『新日本文学』	一九五一年二月号	編集後記	二六九
『新日本文学』	一九五一年三月号	編集後記	二七〇
『新日本文学』	一九五一年四月号	編集後記	二七三
『新日本文学』	一九五一年五月号	編集後記	二七三
『新日本文学』	一九五一年六月号	編集後記	二七五
『新日本文学』	一九五一年七月号	編集後記	二七六
『新日本文学』	一九五一年八月号	編集後記	二七七
『新日本文学』	一九五一年九月号	編集後記	二七九
『新日本文学』	一九五一年十月号	編集後記	二八一
『新日本文学』	一九五二年一月号	編集後記	二八三
『新日本文学』	一九五二年二月号	編集後記	二八四
『新日本文学』	一九五二年三月号	編集後記	二八六
『新日本文学』	一九五四年九月号	編集後記	二八七
『新日本文学』	一九五四年十月号	編集後記	二八九
『新日本文学』	一九五四年十一月号	編集後記	二九一
『新日本文学』	一九五五年一月号	編集後記	二九三
『新日本文学』	一九五五年二月号	編集後記	二九四
『新日本文学』	一九五五年三月号	編集後記	二九五
事務局から	一		二九七

[illegible]

